

座談会

「塩竈は何度でもよみがえる」

繰り返される災害を乗り越え、

海、港とともに発展を遂げてきた塩竈。

塩釜市青年四団体連絡協議会の方々に、

3・11と復興、明日への期待を語っていただきました。



参加者

塩釜市青年四団体連絡協議会会長

鈴木 整さん

塩釜商工会議所青年部会長

阿子島 徳裕さん

塩釜商工会議所青年部

牧野 仁美さん

塩釜商工会議所青年部

菊地 誠悦さん

塩釜商工会議所青年部

千葉 誠さん

塩釜市水産青年連合会

武田 和浩さん

塩釜市水産青年連合会

針生 清悦さん

塩釜青年会議所副理事長

林 幹字さん

塩釜青年会議所事務局長

星 直人さん

志波彦神社・鹽竈神社氏子青年会幹事長

戸羽 宏明さん

志波彦神社・鹽竈神社氏子青年会

小野 智之さん

東日本大震災から4年になるうとしています。まずは、自己紹介を兼ねて、お一人ずつ震災の時の状況を振り返っていただきたいと思います。

3・11の記憶

阿子島 塩釜商工会議所青年部の平成26年度会長、阿子島です。震災が発生した時は、会社にいました。一般廃棄物の収集と処理を行う会社です。伊保石にあり、地盤もしっかりした場所ですので、大きな被害はありませんでした。

地震は、社員が収集業務を終えて戻ってきた時でした。すぐに帰宅させたのですが、今振り返ると、その判断が正しかったのかどうか、迷うところです。社員が津波の被害に遭わなかったのは、たまたま運が良かっただけではなかったかと。社員に被害が無かったのは何よりでした。

災害廃棄物の処理は復旧の第一歩ですから、仕事は翌日から休まずとなりました。その間、悩まされたのは燃料の確保でした。知人を頼るなどして、何とか手配でき、業務を継続することができました。



阿子島徳裕さん

林 塩釜青年会議所の林です。地震が起こったのは、グランドパレス塩釜で団体の事業について会議をしていた時でした。激しい揺れに、床が抜けるのではないかと感じました。会議はそこで中止になりましたので、すぐに自宅に戻って子どもたちと避難しました。

会社は多賀城市の国道45号沿いにあります。造園業と不動産の賃貸業です。会社と所有していた不動産は津波で大きな被害を受けました。事業を本格的に再開させるまでに約半年を要しました。

戸羽 氏子青年会の戸羽です。前日が帆手まつりでしたので、午前中に後片付けを行い、午後からお世話になった方々へ挨拶回りをしている時でした。緊急地震速報が鳴ったのは、ちょうど北浜にある志賀石材店さんの前。海が目の前のこの場所では津波が来ると危ないと思い、急いで神社に戻りました。

その後は、避難された方々への対応となりました。地震の時に遠方から参拝されていた方などを氏青事務所に避難させ

ました。また、近くの中学校で明かりが足りないと聞いて、届けに行ったりと深夜まで対応に追われました。



帆手まつり

全国1位からの転落

武田 塩釜市水産青年連合会の武田です。会社は蒲鉾の製造・販売です。まずは水産業全体の状況についてお話しします。

魚市場は、老朽化していたこともあり、施設が大きな被害を受けました。現在は仮設的な施設で対応しています。また、仲卸市場は、津波の被害を受けなかったこともあり、約10日間休業しただけで再開することができたようです。

蒲鉾業界についてですが、組合加盟23

社中、2社が甚大な被害を受け廃業になり、廃業とならないまでも、従来の社屋や工場を解体、新たに建設と1年以上かけて再開にこぎつけたところが2社ありました。

ですが、その後の売上・生産状況を見ると、あまり芳しくありません。震災前、塩竈は全国で1位の生産高を誇っていましたが、震災後は7位に転落しました。組合加盟の多くはスーパーとの取引に依存するメーカーさんです。復旧・再開で事業が滞った間に、県外の同業者に棚を取られたわけです。その棚を取り返すのがなかなか困難なんですね。現在は、4位、3位あたりでしょうか。ここ1、2年の間で1位に返り咲くことを目指しているところですよ。



塩竈の蒲鉾

私の会社についてお話しすると、社屋は工場、販売コーナー、団体の方々がご



平成23年3月19日に
行われた魚市場の清掃

利用いただける食堂などからなる観光施設でもありました。観光バスなどで訪れる団体客を受け入れていましたから、お昼時は大勢の方々にぎわいます。地震が昼食の時間帯を過ぎた後だったのは幸いです。

大津波警報が発表されたことに伴い、会社の周辺にお住まいの高齢者の方々などを中心に約60名の避難者を収容することになりました。指定避難所ではありません。ですが、高齢者にとっては近くの小学校への移動といっても、歩くだけでも大変です。市と相談し、2週間ほど避難所として市民を受け入れられました。

会社を襲った津波は2・5から3メートルぐらいでしょうか。復旧するまで2カ月半ぐらいかかりました。

牧野 塩釜商工会議所青年部の牧野です。会社は鮮魚の販売です。地震発生は、仙台駅にいる時でした。鉄道が全線運休となり、3日間自宅に帰ることができませんでした。

自宅に帰ってからは、子どもたちが三小に避難していたので、自宅と三小を往復する日々でした。

会社は9店舗からなるチェーン店を運営していましたが、2店舗が被災し、そのまま閉店させることになりました。



牧野仁美さん

津波との遭遇

菊地 塩釜商工会議所青年部の菊地誠悦です。会社は食品機械の製造業で、新浜町にあります。

地震は得意先からの帰り道、港町を自動車で行く途中のことでした。すぐに会社に戻りましたが、到着した時には社員全員が避難していました。

大津波警報が出ていたのはラジオを聞いていて知っていましたが、その時は楽

観視していたんですね。いろいろな物が散らかっていましたので、それらの片付けに取り掛かりました。そうした時、ラジオから「女川に津波到達」との情報を聞き、慌てて避難しました。

JR本塩釜駅の方向から来る津波と遭遇したのは、自宅のある西町にいったん戻り、その後、実家のある藤倉に向かうとした時でした。渋滞はしていませんでしたが、判断を間違えると、大変危険な状況でした。

丹六園さんのところの交差点を左折したのですが、マンホールからは水が噴き出していました。



菊地誠悦さんが藤倉に向かう際に左折した交差点

千葉 塩釜商工会議所青年部の千葉誠であります。会社は自動車整備工場で、新浜町にあります。地震の後は、すぐに避難しま

した。

津波の高さは会社のある場所で約1・5メートル、道路沿いで2メートルぐらいだったでしょうか。12日の朝、会社に向かう途中に見た光景は忘れられません。戦争でも起きたのかと思われるような悲惨な状況でした。

仕事の面では、お預かりしていたお客様の車が流されてしまったことが、何よりも悔やまれてなりません。工場は再開できましたが、自然災害ですのでお客様の車は補償が受けられないのです。そこが辛いですね。お客様には本当に申し訳ないと思っています。事業は復興したと言えても、自分自身はまだまだ復興していませんね。



千葉誠さん

情報不足へのいらだち

鈴木 塩釜市青年四団体連絡協議会・会長の鈴木です。地震の時、私は出張で大阪にいました。

レンタカーを借り、約30時間かけて塩

竈へ帰って来ました。その間、ラジオでニュースを聞いていたのですが、塩竈に関する情報は皆無でした。家族もいまずし、会社も気になります。ですが、状況がさっぱりつかめない。電話も通じません。不安を抱くとともに、大変苛立ちました。

結局12日の夜、仙台へ着いた頃に届いた友人からのSNSによる情報が塩竈に関する第一報でした。発災直後、市外にいた人々に塩竈の情報は一切届いてなかったというのは、間違いな事実ですね。



鈴木整さん

小野 氏子青年会の小野です。市の職員で、当時は福祉事務所に勤めていました。避難所担当でしたので、吉番館から玉川中学校まで急いで自転車に向かい、避難所の開設準備に取り掛かりました。



塩釜水産物仲卸市場

針生 塩釜市水産青年連合会の針生です。勤務先は仲卸市場にありますが、地震は自宅にいる時でした。

12日に状況を確認しようと、仲卸に向かったのですが、その時は被害を受けているに違いないと恐る恐るでした。魚市場の周辺には船が打ち上げられていたり、自動車が重なっていたりしていましたので、相当な被害を覚悟しましたが、幸いにも仲卸市場は無事でした。10日後ぐらいに営業を再開したのですが、魚の水揚げがありませんから、加工品や冷凍物を取り扱う会社、在庫のある会社が少しずつ販売するといった感じでした。



小野智之さん



星直人さん

星 塩釜青年会議所の星直人です。会社は管工事業で、多賀城市にあります。地震は仙台で仕事をしていた時でした。

当日は、津波で道路が浸水し、会社に戻りたくても戻れないという状況でした。翌日からは、多賀城市水道部の給水活動をサポートすることとなりました。会社は1階が水没したため、ストックしてあった資材が全部使用できなくなり、営業再開には数カ月を要しました。



針生清悦さん

震災時を振り返っていただきましたが、現在に至るまでの歩みについてお聞かせいただけますか。

復旧から復興へ

阿子島 震災直後から本当に忙しい日々を過ごしました。災害廃棄物の処理については、収集し、処分場に集約、それらを仕分け、破砕、埋立まで、一連の作業が無事に完了しています。現在、処分場の管理を担当させていただいています。一段落つきましたので、事業の今後の展開について模索しているところです。

青年部としては、毎年「市民まつり」を主催していましたが、震災の年だけは中止しました。頑張れば実施できたかも知れないのですが、その時は心が折れていたんですね。また、毎日の業務をこなすことで精一杯でした。楽しみにしていた市民の皆さんには、大変申し訳ないことをしたと思っています。

「災害廃棄物の処理が完了した」ことを受けて、本当の復興はこれからでしょうか。

阿子島 事業としてはそうですね。この先は復旧から復興になります。会社もそうですが、塩竈の町自体に活気が出てこないことには、復興とは言えないでしょう。



全国から届いた
応援のメッセージ



ありがとうございます。林さんはいかがですか。

林 得意先は津波の浸水エリア外に多かったのですが、取引への影響はあまりありませんでした。

不動産の賃貸業については、所有している物件の整備がついて後、みなし仮設への入居希望が多くなりました。それに何とかお応えすることができましたので、少しは被災された方々のお役に立つことができたかなと思っています。



林幹字さん

氏子青年会の戸羽さん、これまでの活動についてお聞かせいただけませんか。

祭事で市民を元気に

戸羽 青年会には、会社の経営者、会社員、公務員など、さまざまな職業の方がいます。その仲間が各地区のいろいろな状況を実際に目にしたり、体験したりしています。自宅を失った方、知り合いの方を

亡くされた方もいました。厳しい状況にありながらも、その辛さを押しとどめながら、神様に奉仕してきました。

そうした仲間から話を聞くと、塩竈がまだまだ大変な状況にあることが分かります。そこで、祭事を通して市民の皆さんに元気になっていただこうと、思いを込めて奉仕を続けました。

例えば、神様（神輿）を皆さんの近くへお持ちしたいと思っても、震災直後の花まつりではまちへ下りることができず、境内での渡御となりました。それはとても残念でした。翌年の花まつりは、まちへ下りることができました。沿道には涙を流しながら神輿に手を合わせる方もいらっしました。200年300年と続く神輿渡御を見ていただくことによって市民の方々に元気を与えることができたら、うれしい限りですね。



戸羽宏明さん

皆さんは、現在の復興状況について、どのように感じていらっしゃいますか。また、復興に当たっての課題と考えている



しめやかに斎行された平成23年の「花まつり」

ことがありましたら、お聞かせください。

千葉 防潮堤の高さと景観の問題などが議論されていますが、景観は大切にしてほしいですね。

立派な防潮堤ができて、住んでいる人が少ない、人が集まらないようなまちでは困ります。海や港が見える、いつも近くに感じられることが、塩竈の魅力の一つなのですから。

鈴木 塩竈は、沿岸被災地の中でも被害の程度が比較的小さかったとすれば、復旧から復興へのアドバンテージを本来持っていたとも言えることでしょう。ならば、宮城県内の他地域よりも早く復興できたに違いありません。

ですが、現実を見ると、先ほど武田さんからお話があったように、蒲鉾製造業

の方々とは元通りには達していません。そこで、思うのです。アドバンテージがあったはずの塩竈でさえ震災前にいまだ戻っていない、その理由こそ沿岸被災地にとって考えなければならぬ課題なのではないかと。その辺を行政の方々にも、しっかりと考え、対応する施策を速やかに実施していただければと思います。

阿子島さんは、どのように感じていらっしゃいますか。



マリナーゲート塩竈

高齢化と過疎化の進行

阿子島 課題は浦戸の復興でしょうか。仕事で1年に何度か訪れるのですが、訪れる度に人口が減っているようです。馴染みのおばちゃん、ずっと住んでいた方に「私、島を出るんだ」と言われると、とても寂しくなりますね。

災害公営住宅の建設が進んでいますので、それが人口流出の歯止めになることを期待しています。震災前から高齢化や過疎化が進んでいたことは知っていましたが、震災でさらに加速したようですから。



桂島花火大会

千葉 昭和35年のチリ地震津波は経験していないので被害や復興の過程は分かりませんが、確かに言えることは、塩竈はその後も海や港とともに発展してきたまちだということですね。

では、今回のような大津波が来ても、安全、安心に暮らせるようなまちをつくるには、どうすればいいのか。行政だけでなく、私たちも考えて、アイデアを出して、まちづくりに積極的に参加することが必要と感じています。

例えば、津波の際の避難経路でしょうか。津波が怖いからという理由で人が出て行く、あるいは観光客が来ないのなら、万が一の時でも避難ルートがきちんと整備されていますと、アピールできるようなれば、それが塩竈の特徴、ウリにもなることでしょう。

現状とチャンスと捉えること

武田 観光については、塩竈は、全国に知られる日本三景の松島に隣接するという優位性を持っています。本当に多くの観光客が塩竈を訪れます。宿泊施設に限られるため現状では通過点ではありませんが、塩竈神社や浦戸諸島、観光船、仲卸市場、見学・購入・飲食が可能な蒲鉾工場など、観光資源には恵まれています。まだまだ大きな可能性を秘めていると言えるでしょう。

現在、新しい魚市場の工事が進んでいます。ハード面はほぼ決まっているのですが、完成後の活用方法といったソフト

面は、使用する事業者の意向や市民の意見を踏まえながらこれから検討されるようです。アイデア次第では集客効果の高い施設になりえると思います。

また、市内の各所で震災からの復興を目指すまちづくりも進められています。市民の意向、意見を受け入れていただける機会が多くなっているように感じられます。

今をネガティブに考える必要はないでしょう。これまで以上に素晴らしいまち、魅力的なまちを自ら創りだすことができ、絶好のチャンスと捉えて、一緒に取り組みましょう。



武田和浩さん

復興や新しいまちづくりにはアイデアが必要であり、まさに今こそ、それが求められているというご意見ですね。

戸羽 塩竈神社には奥州一之宮としての長い歴史、伝統が残っています。それらと復興の過程で生まれる新しいモノやコトがうまく融合して、住んでいる方々はも

ちろん、訪れる観光客の方々にとってもより一層魅力的な塩竈となることを願っています。

新たな仲間についてお話ししますと、震災をきっかけとして神輿渡御に参加し、一緒に奉仕することになった方もいます。理由を聞くと、私たちの活動を見て、「一緒に」と思われたとおっしゃいますが、その根底には、脈々と受け継がれてきた歴史や伝統への敬意があつてのことのようです。このように若い方々の神輿渡御への奉仕者が増えています。



塩竈神社

世代を越えて受け継がれる歴史と伝統。まさに塩竈の宝物ですね。

震災前以上の復興のカギ

菊地 得意先は水産関係の会社が多いのですが、震災後の明るい話題として、ここ数年の間に注目を集め、急激に伸びた会社がいくつもあります。その理由を考えてみると、いずれも特色ある製品を作っている会社なんですね。他社では製品化していないとか、宮城県の地場産業を活かした商品とか…。また、メディアの利用の仕方が上手な会社という共通点もありましたね。仙台や石巻と比べると、そうした特色ある製品、メディアの力で頭角を現す会社がまだまだ少ないように感じます。

塩竈ならではの、塩竈でしかできない、特色あふれる何かを真剣に考えていくべきではないでしょうか。メディアの活用方法もいろいろとあることでしょう。そうした試み、取組がないと、震災前以上の復興は難しいように思われますね。



菊地誠悦さん

塩竈ならではの、塩竈でしかできない、特色あふれる何か…。
牧野さん、思い当たるものはありますか。

牧野 塩竈らしいと言えば、一昨年前のみなと祭に、子ども向けのカヌー体験教室を企画し、北浜で実施しました。その中心となったのは、船舶会社の社長さんなのですが、塩竈をマリンスポーツ・レジャーのスポットにしたい、という夢を抱いている方でした。

震災後でしたから、お母さん方の中には、子どもを海に出すのは怖い、という方もいらっしやいましたが、子どもたちの多くはとても楽しそうに漕いでいました。海が目の前にある塩竈ですから、マリンスポーツ・レジャーが気軽に楽しめるまちになるのもいいですね。

私の子どもの感想ですが、夏休みに行われる浦戸スクールが楽しいと言っていました。浦戸という自然豊かな島



浦戸サマースクール

美しい海も「塩竈ならではの」でしょうね。最後に、みなさんのこれからの塩竈に対する期待をお聞かせください。

星 鹽竈神社の祭事、港や海に関係するイベントも多くあります。そうしたイベントに市民だけでなく、他の地域の人たちを巻き込んで、もっと多くの人々に訪れていただいで、より活気のあるまちになることを願っています。

林 昭和50年代の後半頃をピークに、人口は減少しています。復興事業、新たなまちづくりや産業振興施策の実施を契機として減少に歯止めがかかり、少しずつでも増加に転じることを期待しています。

戸羽 青年会のほかに、小学生、中学生、高校生の子どもたちも活動しています。その子どもたちが大きくなり、またその子どもたちが…というように、歴史と伝統、文化が連続と受け継がれるまちであってほしいと思っています。

針生 鹽竈神社の祭事、イベント、仲卸市場など、観光資源は豊富に揃っています。より多くの観光客にお越しいただき、活気あるまちになってほしいと思います。



2013 塩釜フード復興見本市

まちづくりの方向性

武田 これまでのまちづくりには、統一感がなかったように感じます。例えば、歴史ある神社を核とした小京都的なイメージでのまちづくり、あるいは、マリンスポーツ・レジャーをメインとした体験観光ゾーンとしてのまちづくりなど、方向性を明確にした取組に期待しています。

小野 氏子青年会は神社を通して伝統・文化の活動を行っている団体です。これからも氏子三祭（帆手まつり・花まつり・みなと祭）などの祭事を通して、市民に元氣を与え、まちのにぎわいづくりに貢献でき

ば幸いです。また、この青年四団体で神社を会場に春と秋の年2回「しおがまさま神々の花灯り・月灯り」を主催しています。塩竈の魅力に触れる機会として、より多くの方々にご覧いただきたいと思っています。



「しおがまさま神々の花灯り」

阿子島 皆さんおっしゃるように、塩竈は海のまちです。その一方で、アップダウンが激しい、坂のまち、山のまちでもあります。そうした内陸部も含め、市全体として住みよいまちづくりに参加したい、協力したいと思っています。

どのような形態になるのかイメージができていませんが、商工会議所青年部は

青年経済人の団体ですので、新しい産業の創造、話題性のあるイベントの主催などで貢献できればと思っています。

青年経済人としての役割

菊地 青年経済人の団体（商工会議所青年部）に所属し、お祭りやイベントの手伝いができるのは、自分で商売しているから、商売が続けられているからなのです。今日集まっていられないからなのです。中小企業の経営者、もしくはそこに属している方々です。それぞれの会社が活性化すれば、まちもにぎわい、お祭りやイベントも盛り上がることでしよう。

とすれば、まずは自分の商売を大きくすることを考えましょう。前年よりもっと大きく、今年よりも来年はもっと大きくするぞとの意気込みで。その積み重ね、その集合こそが、まちをにぎやかにし、お祭りを盛り上げる原動力です。皆さん、一緒に頑張りましょう。

牧野 小学生の子どもの母親ですが年々1年生の数が減っている感じがします。もっと子どもが増えてほしいですね。駅も、病院も数多くありますし、塩竈は住みよいまちと、私は思っています。

それと、母親らしい意見かも知れませんが、子どもたちにもっと魚を食べてほしいですね。全国有数の港のあるまち、魚の水揚量を誇る港のあるまちの子どものためのからです。



平成23年の「塩竈みなと祭」

外国からの観光客

鈴木 「塩竈には外国からの観光客が少ない」と、最近ふと感じました。松島があり、鹽竈神社があり、観光船があり、お寿司も、お酒も、蒲鉾もあります。外国の方が喜びそうなものが数多く揃っているはずなのに、ポテンシャルはかなり高いはずなのにどうしてでしょうか。これまでは、国際観光の意識が少しばかり足りなかったのかも知れません。そこを何とかできないかと思っています。

将来、2020年の東京オリンピックの頃までに、「東京へ来たなら、ついでに

宮城、塩竈でしよう」と来日した方々に言われるようになったらいいですね。

千葉 鈴木さんが話されたことに関係しますが、外国の方が感じる塩竈の魅力とはなんだろうと思いますね。

自分の中では、鹽竈神社、海、マグロなどしか浮かびません。でも、本当にそれらなのでしょうか。将来の塩竈、まちの発展を考えた時、実は住んでいる人間には気づかない魅力があるのではないかと気になるんですね。

外国の方だからこそ見えるもの、気付くもの、住んでいない方だからこそ分かる隠れた魅力とかがあり、そうしたものの中に塩竈の発展の可能性が潜んでいると考えています。

また、震災後に強く感じたのは、人と人の繋がり、仲間の大切さでした。面積の狭いまちですから、出掛けた際に知っている人に出会うことは珍しくありません。どんなに発展しようとも、人と人との結び付きを大切にしようなまちであることを願っています。

貴重なご意見をたくさんいただきました。お忙しい中、今日はありがとうございました。



「自然の力を 心に刻み
未来を見つめ 塩竈に生きる」

「昇る太陽の塔」と「日の出石」、「時の縁石」からなる
塩竈市東日本大震災モニュメント。

震災の記憶と経験を風化させることなく、
後世に伝え残すとの思いを込め、
そこには、津波の犠牲となった方々のお名前とともに、
「自然の力を 心に刻み 未来を見つめ 塩竈に生きる」
のメッセージが刻まれています。

塩竈市震災復興計画の基本理念は、

「長い間住みなれた土地で、安心した生活をいつま
でも送れるように」。

いくたびかの災害を乗り越え、

繁栄を築き上げた人々の歴史は地域の誇りであり、
復興計画が目指す都市像も、その延長線上にあります。

また、平成26年11月、「時の縁石」は、

復興支援のため、当市に長期的に職員を派遣してい
ただいた団体が刻まれ、

「復興支援感謝の碑」となりました。

震災を機に新たな地域間交流、

人と人をつなぐ絆が生まれました。

塩竈の復旧・復興を、

全国の多くの方々が見守っています。

歴史を道しるべとし、支援への感謝の思いを力に、
未来へ。



おいさと笑顔がつどう
みなとまち塩竈

あした
明日へ
東日本大震災
復旧・復興の記録

発行日／平成27年3月
発行／宮城県塩竈市
編集／塩竈市震災記録誌編集委員会
非売品

本誌の編集に当たり、多くの市民や企業・団体の皆
さまにご協力をいただきました。
その一部をここに記します。(順不同・敬称略)

塩釜商工会議所／塩釜市社会福祉協議会／塩竈市消防団／陸上
自衛隊／海上自衛隊／海上保安庁／宮城県警察本部／塩釜地区
消防事務組合／大友文雄(大友写真館)／市川弘子(市川紙店)
／水間正夫(元宮城県漁業協同組合・塩釜市第一支所運営委員
長)／佐藤秀治(佐藤鮮魚店)／高橋幸三郎(NPOみなと
しほがま)／畑中みゆき(NPO High Five)／
横田善光(エフエムベイエリア)／八木伸太郎(宮城ケーブ
ルテレビ)／大津晃一(NPO 浦戸アイランド倶楽部)／佐
浦弘一(佐浦)／佐藤孝一(坂総合病院)／坂本久(塩釜カ
ス)／稲垣雅之(ヌギ製菓)／鎌田実(浦戸第二小学校)／渡
辺慎二(浦戸第二小学校)／千田忠一(志波彦神社鹽竈神社氏
子青年会)／鈴木宗博(願成寺)／GAMA ROCK 実行委
員会／わせねでプロジェクト／内海和江／内海榮蔵／桂島区
長)／高橋栄悦(石浜区長)／鈴木虎男(野々島区長)／島津
功(寒風沢区長)／尾形孝雄(朴島区長)／塩釜市青年四団体
(塩釜商工会議所青年部、塩釜水産青年連合会、塩釜青年会議
所、志波彦神社鹽竈神社氏子青年会)有志／ワークシヨップ参
加者／木村浩二(仙台市博物館)／田中聡子／バイウエーブ／
NPO みなとしほがま／土井憲司／NPO 20世紀アーカイブ
仙台

ほか多くの市民・事業者・関係者の皆さま